

ーマグワー



出典：公益社団法人日本薬学会 HP

〈マグワ〉

学名：*Morus alba* L.

科名：クワ科 Moraceae

属名：クワ属 *Morus*

形態：落葉高木

葉は互生で3~5裂し、卵円形または卵状長楕円形、縁に鈍鋸歯、先は鋭頭、基部は心形

雌雄同株のものと異株のものがある

雄花序は円柱形で下垂し、雌花序は長楕円形で、成熟すると黒紫色の集合果となる

成分：トリテルペノイド α -amyrin acetate、フラボノイド morusin、kuwanon A~H、多糖 moran A など

生薬名：ソウハクヒ（桑白皮）

使用部位：マグワの根皮

用途：漢方で消炎性利尿、鎮咳、去痰の目的で用いる

製剤：㊟清肺湯、五虎湯

マグワは昔、中国から朝鮮半島を経て日本に入ってきた植物である。そのとき中国から入ってきたマグワは従来から日本に野生するヤマグワと区別するためにカラグワ（唐桑）と呼ばれていた。マグワとヤマグワでは形態に多少の違いがみられる。

クワといえは昔から絹糸になるマユを作る蚕の餌として有名だが、蚕がクワの葉を食べる理由として、クワの葉には蚕を誘引する成分（citral、linalool、linalyl acetate、terpinyl acetate その他）、噛み付かせる成分（ β -sitosterol、morin など）、食べ続けさせる成分（セルロース、糖類、クロロゲン酸など）が含まれ、かつそれらの作用を妨げる成分を含んでいないことがあげられる。

また近年、桑の葉に含まれるデオキシノジリマイシン deoxynojirimycin が糖吸収を阻害して食後高血糖を改善する等の効果が注目されている。

民間では根皮だけでなく葉や実なども薬用とされており、果実（桑椹^{そうじん}）は肝臓・腎臓の機能を高める作用があり、枝（桑枝）はリウマチ・神経痛・関節炎に用いられ、葉（桑葉）は糖尿病に用いられる。

〈参考〉

最新薬用植物学（廣川書店）、生薬学第8版（廣川書店）、くらしの薬草と漢方薬（新日本法規出版）

2017.5.19 4 YP MI